

別府市公共ライドシェア 「湯けむりライドシェアGLOBAL」 3週間の実績

令和7年5月21日

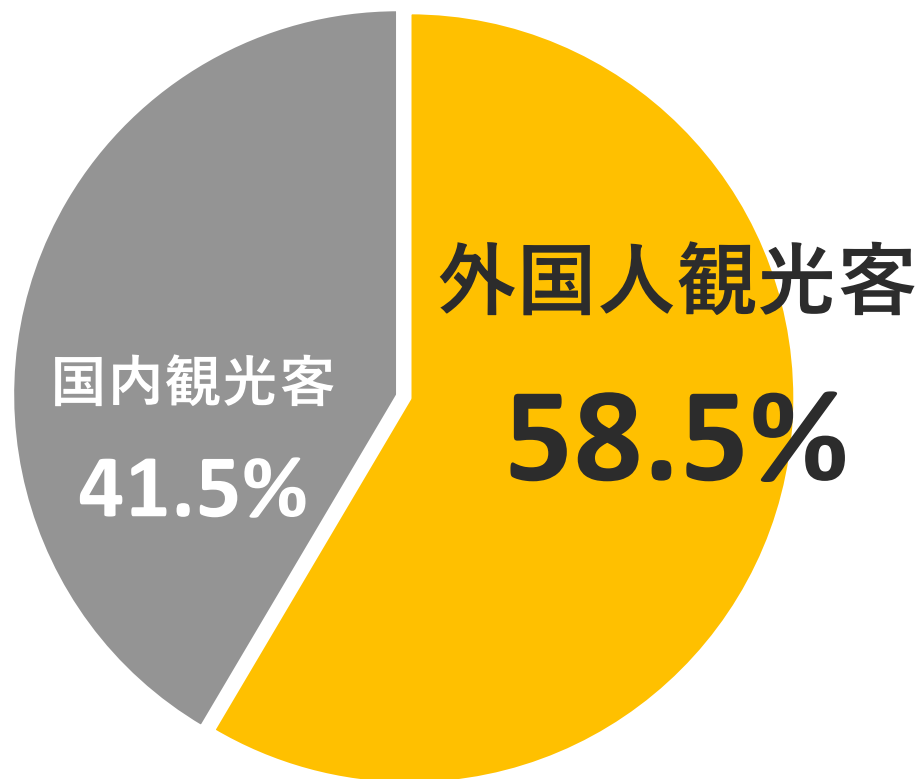
一般社団法人全国自治体ライドシェア連絡協議会（全自連）・別府市

別府市公共ライドシェア「湯けむりライドシェアGLOBAL」3週間の実績（概要）

- 調査期間：**20.5日間**（令和7年4月28日（月）正午～5月18日（日））
- データ収集方法：公共ライドシェアドライバーへの聞き取り調査等

(1) 実車数と外国人観光客比率

実車数：**997** 件



※外国人観光客率は、集計を開始した5/3以降の数値から算出

(2) デマンド型公共ライドシェア 1時間当たり実車数比較（17時以降）

- 別府市 1時間当たりの実車数：**2.31件**
※8～17時：**3.41件**
- A市 1時間当たりの実車数：**0.50件**
- B市 1時間当たりの実車数：**0.17件**

※比較都市：温泉を有する観光地・最寄り空港から1時間以内・新幹線駅あり（別府市は新幹線駅無し）

(3) ドライバー総稼働時間数

1,467.5 時間

ドライバー：110人

※うち、大臣認定講習受講済：92人、二種免許：8人、登録見込：10人

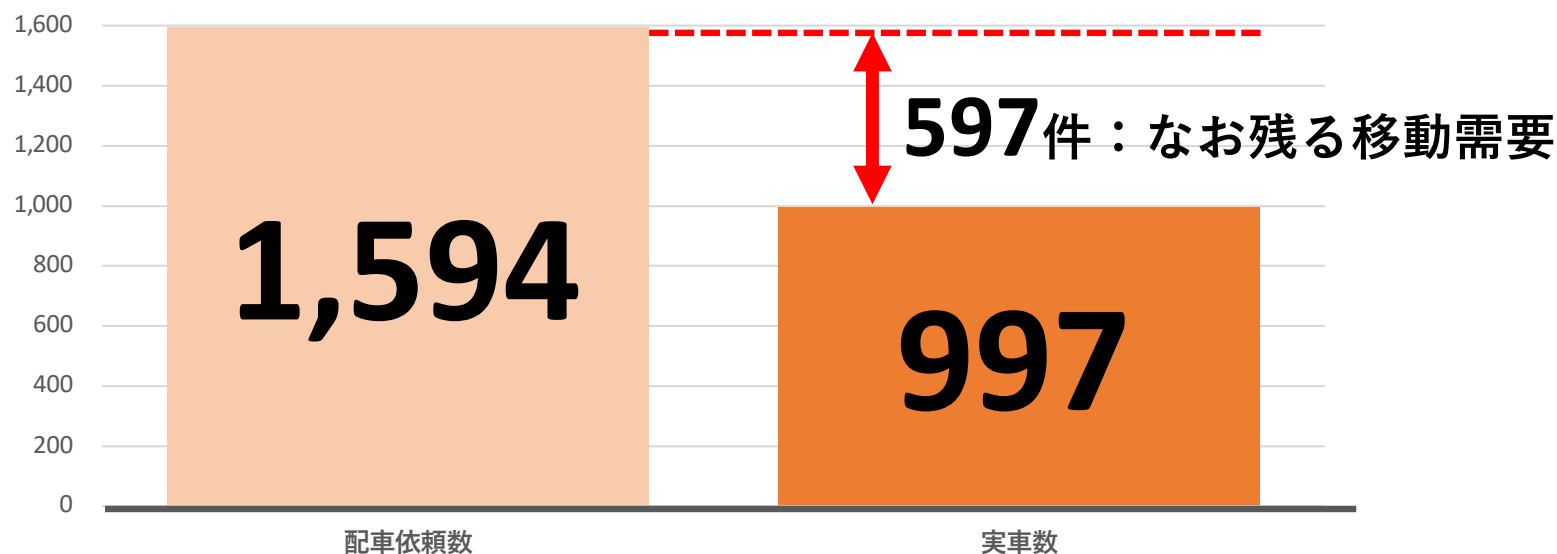
(4) 売上げ額

3,081,743 円

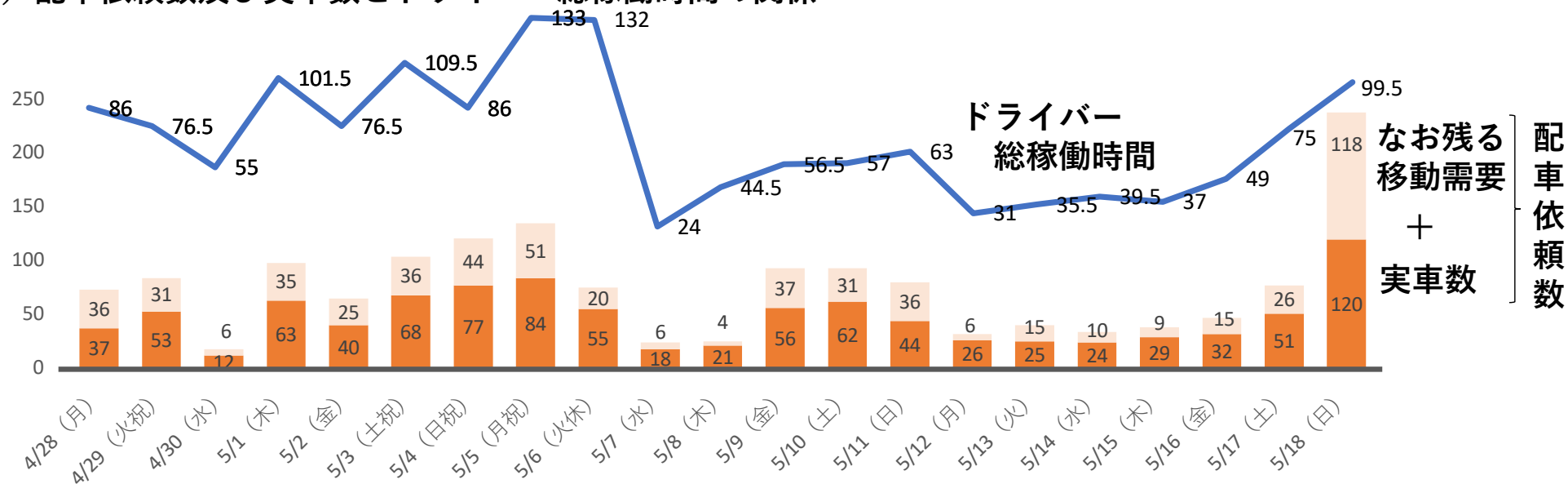
別府市公共ライドシェア「湯けむりライドシェアGLOBAL」3週間の実績（概要）

- 調査期間：**20.5日間**（令和7年4月28日（月）正午～5月18日（日））
- データ収集方法：公共ライドシェアドライバーへの聞き取り調査等

（5）配車依頼数と実車数

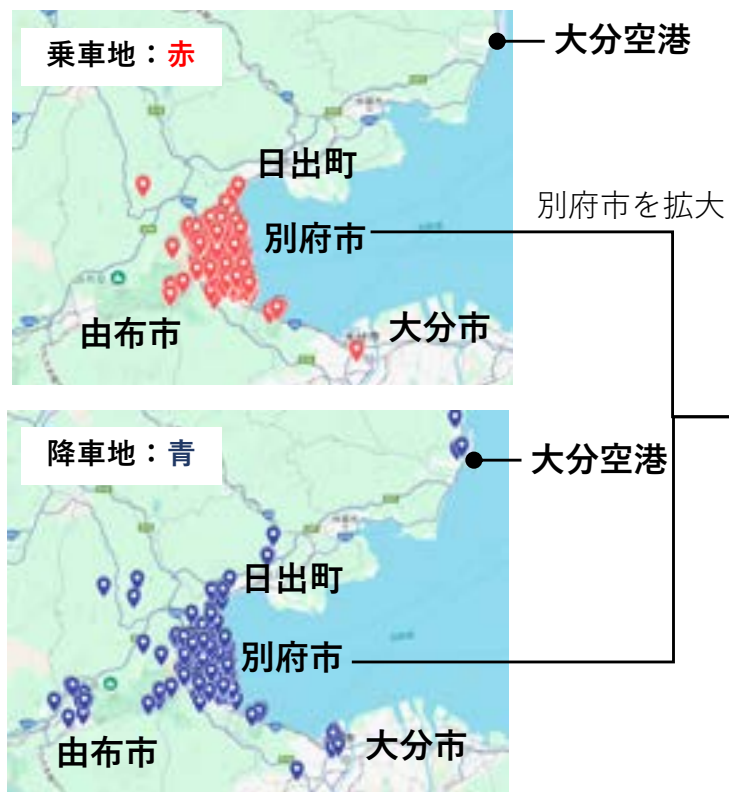


（6）配車依頼数及び実車数とドライバー総稼働時間の関係



別府市公共ライドシェア「湯けむりライドシェアGLOBAL」乗車地・降車地の分析

- 調査件数：436件、調査期間：16日間（5月3日（土）～5月18日（日））
- データ収集方法：公共ライドシェアドライバーへの聞き取り調査等



○乗車地・降車地分類（上位4分類）

		温泉・ 観光施設	飲食店・ 買い物	宿泊施設	駅・バス 停・空港	合計
乗車地	件数	140	97	75	54	366
	割合	32.1%	22.2%	17.2%	12.4%	83.9%
降車地	件数	110	72	119	101	402
	割合	25.2%	16.5%	27.3%	23.2%	92.2%

- 乗降地共に「温泉・観光施設」「飲食店・買い物」「宿泊施設」が全体の7割を占める。この区間の移動需要が多いことが分かる。
- 約3人に1人は「温泉・観光施設」で乗車。温泉・観光後の移動ニーズが多いことが分かる。
- 約4人に1人は、「駅・バス停・空港」で降車。別府市の公共ライドシェアが二次交通として機能していることが分かる。

別府市公共ライドシェア「湯けむりライドシェアGLOBAL」現場の声（1／2）

公共ライドシェアドライバーへのヒアリング調査（抜粋）

1	よく知っている道を運転するだけなのに、こんなに喜ばれるとは思わなかった。
2	バスもタクシーも無い場所から公共ライドシェアを呼んだ外国人観光客。迎えに行った時にすごく嬉しそうな表情を向けてくれ、それを見て私も心から嬉しくなった。
3	昼間はインバウンド含む観光客が多い印象。
4	お子さんが熱痙攣を起こし、救急車で別府医療センターに運ばれた観光客の親子。治療後、病院から宿に帰ろうとするもタクシーが捕まらず困っていたところ、ダメ元で配車アプリGOを開くと公共ライドシェア圏内であることに気付いたとのこと（公共ライドシェア初日の4月28日夜）。 別府から湯布院の旅館までお送りする際、「途方に暮れていたが、公共ライドシェアが迎えに来てくれたおかげでよい旅行になった」と大変喜ばれた。
5	外国人観光客は、あまり料金を気にしていない印象。迎車料も1,000円も気にしていない印象。
6	依頼が多く次々と配車がかかる。
7	他人を乗せて運転することやドライバーアプリが操作できるか、最初は緊張と不安が大きかったが、徐々に慣れてくると、緊張よりも地域貢献ができている事への喜びの方が大きくなっていった。
8	他人を乗せて運転するという仕事の、責任の重さを痛感した。日常、当たり前のようにになっていたバス・タクシー等運送事業の皆様へ、尊敬と感謝の気持ちが高まった。

別府市公共ライドシェア「湯けむりライドシェアGLOBAL」現場の声（2／2）

観光案内所スタッフへのヒアリング調査（抜粋）

1	外国人は、ライドシェアをPRしなくても、配車アプリを抵抗なく使うことが分かった。
2	観光案内所に来た外国人が、「配車アプリを、今朝、熊本でも使った」と言っていた。その後、別府に来訪し、再び配車アプリを利用したと思われる。
3	配車アプリを活用した公共ライドシェアが始まったおかげで、移動の選択肢が増え、外国人旅行者の利便性が向上したと感じる。
4	鉄輪から血の池地獄行きのバスに並ぶ人が多くて、待っている人全員が乗ることができないことが何度も起こった。（※まだ、公共ライドシェアの供給量、移動ニーズとのマッチングが十分ではないという意味）
5	ひょうたん温泉から血の池地獄の間の輸送や、別府から大分空港までの輸送など、外国人客が数回公共ライドシェアを利用したと聞いた。

タクシー事業者へのヒアリング調査（抜粋）

1	昨年のゴールデンウィークより客が少なかったが、タクシー利用は昨年並みであった。
2	公共ライドシェアの車両を見ることはなく、他の乗務員からも観光施設などで競合するという報告は受けていない。
3	公共ライドシェアの影響は、今のところないと思われる。
4	ゴールデンウィーク中の売上げは、前年並みであった。
5	タクシー稼働数も前年同様であった。
6	ゴールデンウィーク中のタクシー配車依頼には、ほとんど対応できている。

別府国際観光港の
タクシー待ちの様子
（令和7年5月18日
大型クルーズ船入港）



別府国際観光港の
タクシー待ちの様子
（令和7年5月10日
大型クルーズ船入港）



（左）幹線道路（国道10号線）
沿いの路線バス乗車待ちの様子
（令和7年5月18日大型クルーズ
船入港）

別府市内観光施設の
混雑の様子
（令和7年5月3日
連休後半）



JR別府駅（西口）
路線バス乗車待ち
の様子
（令和7年5月3日
連休後半）

まとめ：別府市公共ライドシェア「湯けむりライドシェアGLOBAL」全自連分析

①別府市内に「既に存在していた」国内外観光客の需要が顕在化

- ・ 8～17時の1時間当たりの実車数は、プロモーション本格実施前にもかかわらず、3.41件と高い（他自治体の実績と比較しても高い）。
- ・ 既に存在していた移動需要に、供給（公共ライドシェア）を当てたことで、潜在需要が可視化された。
- ・ 供給量（ドライバー総稼働時間）と実車数の間に相関関係があり、供給量を更に増やせばマッチング数も更に増加する可能性がある。

②別府市の交通政策が、移動需要を喚起。地域経済活性化に貢献

- ・ 別府市内及び近隣自治体への移動を活性化させ、地域経済を好循環に（特に、温泉・観光施設・宿泊施設・飲食店等への移動が顕著）
- ・ ゴールデンウィーク中や大型クルーズ船入港日（5/9-10,5/17-18）は、実車数増加
- ・ 今後、外国語によるプロモーション開始により、インバウンドの更なる利用増加が見込まれる。

③配車アプリの有用性・利便性を証明

- ・ 配車アプリ（Uber、GO）の国内外観光客に対する浸透率の高さが浮き彫りとなった。
- ・ 配車アプリ会社による、これまでの、他の地域（国内外）でのプロモーション効果が見られた。
- ・ タクシーより高価格帯であるが、利用者はそれ以上の便益（アプリによる配車の利便性等）を享受していることがうかがえる。

④タクシーへの配車アプリ導入を推奨

- ・ 有効な配車アプリをタクシーへ導入すれば、タクシー需要の増加に繋がる可能性がある。
- ・ 利用者は、同じ配車アプリ（Uber・GO）でタクシーへの配車依頼が可能であれば、公共ライドシェアより利用料金の安いタクシーを選択する可能性が高い。
- ・ 同じ配車アプリを導入すれば、現在の公共ライドシェアの稼働台数分を、タクシー需要に置き換えることが可能（配車依頼数と実車数の差がまだあるため、その分の需要も見込める。）。

⑤オーバーツーリズム対策として有効

- ・ 乗降地点は、温泉・観光施設、宿泊施設が多く、観光客が移動手段として活用している可能性が高い。
- ・ 地域内で最も高い乗り物であるため（タクシーより700円高い）、住民利用と住み分けができており、オーバーツーリズム対策としての有効性に期待ができる。

Appendix

別府市公共ライドシェア「湯けむりライドシェアGLOBAL」事業概要

1 現状

- ・別府市を営業区域とするタクシー会社は8社
- ・全8社は日本版ライドシェアを実施中（各社1～2台、合計10台）
- ・配車は、日本版ライドシェアではREA社のシステムを利用しているが、タクシーは大部分が電話（亀の井タクシーはREA、第一交通はモタクを利用）

2 背景・目的

- ・別府市は年間900万人の観光客（うち、100万人がインバウンド）が訪れており、特に、昨年秋以降急回復しているインバウンドの移動の足確保が喫緊の課題
- ・タクシー協会は、日本版ライドシェアも含めてこれ以上供給を増やすことが難しいとのスタンスであることから、別府市が公共ライドシェアを実施することとした。

3 概要

実施主体	大分県別府市
運送者	一般社団法人別府市産業連携・協働プラットフォームB-biz LINK
運行区域	別府市全域（別府市発地・着地）
運行時間	24時間、365日
運行管理	（一社）全国自治体ライドシェア連絡協議会及び（株）エスプールグローバル
運賃	タクシー運賃と同額
迎車料	1,000円 ※タクシーの迎車料は300円
配車アプリ	Uber、GO
ドライバー	応募者：110人
令和7年5月末日現在	（うち、大臣認定講習受講済：92人、二種免許：8人、登録見込：10人）

別府市公共ライドシェア「湯けむりライドシェアGLOBAL」ドライバー情報

人数

110人

(うち、大臣認定講習受講済：92人、二種免許：8人、登録見込：10人)

平均年齢

48.5歳

年代別人数

30代：17人、40代：40人、50代：37人、60代：16人

女性割合

15%

(30代：1人、40代：7人、50代：4人、60代：4人)

募集開始

令和7年4月9日～

報酬・手当等

		持込車両	貸出車両
委託料	歩合部分	運賃の50%	
	インセンティブ	繁忙期間 (※GW期間・年末年始など指定した日) 条件：3時間/日以上運行 GW加算(4月28日～5月6日) 3,000円/日 運行開始GW特別加算(4月28日～5月6日) 5,000円/日(3時間以上運行した場合) 10,000円/日(6時間以上運行した場合)	
		昼間8～18時	—
		夕方18～21時	500円/区分(3時間以上運行の場合)
		夜間21～24時	1,000円/区分(3時間以上運行の場合)
		深夜24～4時	1,500円/区分(3時間以上運行の場合)
		早朝4～8時	1,500円/区分(3時間以上運行の場合)
	車両に関する維持管理補助： 3時間/日以上運行		1,000円/日
	ドライブレコーダー設置		補助あり(条件あり)
	燃料費 条件 3時間/日以上運行		運行距離15円/km

令和7年4月28日出発式の様子（大分県別府市）





※共同通信の記事が全国の地方紙（Web版）へ拡散

【京谷馬、山口泰雄】

は例として、テニフカット
をした別府市の長野雄
雄市長（左前右端）ら

10

ライドシェア 一般ドライバーが
イバーが
車をもちつて自宅周
で客を運ぶサービス。
通常「白タク」は違法
だが、条件付きで例外が認めら
れている。

「**いいえ、**」

【テレビ報道】

NHK

OAB（朝日系）

TOS（フジ系）

OBS（TBS系）

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/oita/20250428/5070021193.html>

<https://www.youtube.com/watch?v=GrC5F-ECNeI>

<https://tosonline.jp/news/20250428/00000004.html>

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/obs/1884213>

外国人観光客にも対応 別府市で新たなライドシェア始まる

04月28日 16時50分



急増する外国人観光客にも対応するため、新しいライドシェアが別府市で試験的に導入されることになり、28日、出発式が行われました。

28日は別府公園で出発式が行われ、国や市の関係者などがテープ

カットをして、運行開始を祝いました。

28日から始まったライドシェアは、「逃げむりライドシェアGLOBAL」と呼ばれるもので、世界各国で利用されている既存の配車アプリを使うほか、運賃はタクシー運賃に相当する額に送迎料金の1000円が加算されます。

運転するのは2種免許を持たない一般のドライバーですが、国の講習を受講しており、27日の時点で65人が運転手として登録されていて、このうちの38人が市の職員だということです。

28日は長野市長みずからがドライバーとなり、外国人の夫婦を鉄輪温泉まで送るデモンストラレーションが行われました。

別府市は、来年3月末まで実証運行を行い、課題や需要などを検証することになっています。

利用者を送迎した長野市長は、「送迎した客からは『特に夜の移動手段に困っていたので、こうしたサービスができてうれしい』という声をいただいた。みずからが率先して取り組んでいく姿勢を見せることで、移動手段の確保という課題を解決していく機運を盛り上げたい」と話していました。

市民ドライバーが自家用車で送迎 新たな移動手段「ライドシェア」始まる 大分・別府市

4/28(月) 16:50 配信

BS大分放送

インバウンドの回復で観光客が急増している大分県別府市で移動手段の充実に向け市民ドライバーが自家用車で客を輸送する新たなサービスが始まりました。



大分県

海外からの100万人を含め年間900万人の観光客が訪れる別府市ではいま、観光地を結ぶバスの減額やタクシー不足といった課題を抱えています。

【別府市観光案内所・稲崎京子さん】「バスが満員で待てど暮らせど乗れない。1時間くらい待っているというのを聞いてそれは大変だなと」

待ち時間を減らすため、観光客の新たな移動手段が登場しました。28日からサービスがはじまったのは「逃げむりライドシェアGLOBAL」です。

講習を受けた市民ドライバーが自家用車で客を送迎する仕組みで、外国人客の利用が多い配車アプリを活用します。24時間365日対応するため市は100人のドライバー確保を目指していて、市職員の副業も可能としています。

【長野市長】「観光客の皆さんが嫌な思いをして別府を去って別府を嫌いになってほしくない。別府市の総力戦でこの制度をさらに進化をさせていきたいという意気込み」

長野市長も自らドライバーに登録し、28日デモ運行を披露しました。送迎料は通常のタクシーより高い1000円で運賃はタクシーと同等額に設定。ドライバーには運賃の半額が支給される仕組みです。

【国土交通省 公共交通政策審議会・池光泰さん】「最近観光客が増えているし、そういう方により地方に行ってほしいというのを国土交通省も国を挙げてやっているもので、これが活用され発展するように期待している」

このライドシェアは来年3月末までの実証運行となっていて、市は課題や問題点を検証した上で本格実施について検討する方針です。

NHK(2025年4月28日)

OBS大分放送(2025年4月28日)

安心・安全な運行に係る研修（「命の研修」受講者アンケート結果（速報値））

- 開催地：大分県別府市（別府市役所）
- 回答者数：31人
- アンケート実施日：4月22日（火）15人
4月23日（水）16人

※4月21日～23日の公共ライドシェア大臣認定講習受講時に「命の研修」を実施（アンケートは、4月22日以降の受講生に実施）



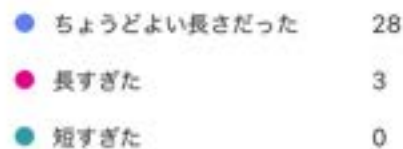
「命の研修」 vol.01（講師：渡邊次彦様）

(1) 研修の内容は理解しやすかったですか？



約7割が、
大変理解した又は
理解したと回答

(2) 研修時間の長さは適切でしたか？



9割が、
ちょうどよい長さ
だったと回答